

修士論文（要旨）

2023年1月

中国における老年大学受講者の学習活動への参加程度に関連する要因の検討  
—社会参加活動と生涯学習の側面に注目して—

指導 中谷 陽明 教授

国際学術研究科  
国際学術専攻  
老年学学位プログラム  
221J5002  
関 策

Master's Thesis(Abstract)

January 2023

Exploring factors related to the degree of participation in learning activities of participants in a college for older people in China : Paying attention to social participation and lifelong learning

Guan Ce

221J5002

Master of Arts Program in Gerontology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yomei Nakatani

## 目次

初めに .....	1
第 1 章 研究背景と研究目的 .....	1
1.1 日中両国の高齢化社会 .....	1
1.2 高齢化による社会問題 .....	2
1.3 「学習・社会参加」に注目する .....	4
1.4 研究目的と意義 .....	5
第 2 章 高齢者の生涯学習と社会参加の研究動向 .....	6
2.1 学習活動及び生涯学習の定義 .....	6
2.2 社会参加活動の定義と分類 .....	6
2.3 学習活動を社会参加活動視点から考える関連要因 .....	7
2.4 学習活動を生涯学習視点から考える（学習動機と継続性） .....	8
2.5 中国における高齢者学習活動の現状 .....	9
2.6 本研究における定義 .....	10
第 3 章 研究の方法 .....	10
3.1 調査対象 .....	10
3.2 調査方法 .....	11
3.3 分析方法 .....	12
第 4 章 研究結果 .....	12
4.1 基本属性と社会的孤立状態 .....	12
4.2 学習活動の関連要因の研究結果 .....	13
4.3 学習動機及び継続要因の結果 .....	15
第 5 章 考察 .....	17
5.1 老年大学の学生の特徴 .....	17
5.2 学習活動への参加要因について .....	18

5.3 学習活動への参加動機について .....	20
5.4 本研究の限界と今後の課題 .....	22
終わりに.....	22
文献： .....	①
資料1：調査票 .....	- 1 -
資料2：調査票（中国語版） .....	- 5 -

## 1. 背景

中国は日本と同様、高齢者人口と高齢化率の急増により、高齢化問題に直面している。また、両国の高齢化の特徴に対する対比と分析により、中国は医療・介護、孤立・孤独死、未富先老問題を抱えている。加えて、平均寿命の伸びにより、長くなりつつある老後の生活をどう支えていくかが重要な課題になっている。このような背景により、両国とも高齢化問題の対応の一つとして、「学習・社会参加」を推奨している。

## 2. 目的

今まで、高齢者の学習活動については、社会参加活動の一つとして取り上げられた研究は多く見られるが、学習活動の動機まで検討する論文はまだ少ない。そこで本研究では、社会参加活動としての老後の学習活動の関連要因を明らかにし、加えて、生涯学習としての学習活動への動機に着目して参加の程度への影響を明らかにする。さらに、課題を整理することで、老年大学の受講生及び高齢者の学習活動に対する支援の可能性について検討を行うことを目的とする。

## 3. 方法

オンライン調査票の作成専用アプリ「アンケートスター」を用い、調査票を作成した。アンケートの質問項目は、以下の通り。

「基本属性」の項目は性別、年齢、独居期間、最終学歴、老年大学での学習頻度とした。「人間関係」について、本研究は人間関係の中で、ソーシャルサポートネットワークの少ない者を、社会的に孤立している者とし、Lubben Social Network Scale-6（以下LSNS-6とする）によってソーシャルサポートネットワークを測定した。栗本ら<sup>13)</sup>は、LSNS-6の得点が12点未満なら「社会的孤立状態」と判定し、得点が12点以上なら「非社会的孤立状態」と判定している。「学習活動の関連要因」は、文献レビューより、調査項目を確定した。「学習動機及び継続性」は、信頼性と妥当性の検討がなされている学習動機尺度と継続意志尺度を用いた。

分析方法は、学習活動への参加頻度を統合して「週に2回以上」、「週に1回か1回未満」の2群に分け、参加頻度を目的変数としてロジスティック回帰分析を行った。データの分析は、IBM SPSS Statistics26 for Macで行った。

## 4. 結果

研究対象142人の内、男男性は28.9%、女性は71.1%である。年齢は、「65歳未満」の調査対象者が65.5%を占めている。調査対象者の最終学歴は約8割が「大学以上」である。また、調査対象者の独居期間は「1年以上5年未満」、「5年以上」の人数を合わせて28.9%を占めている。LSNS-6の得点により非社会的孤立状態の調査対象者が90.8%も占めている。

参加の程度への関連要因では、「心理状況」の「気分の落ち込みはありますか。」の有意差が認められた。気分の落ち込みがある者は、学習活動への参加頻度が低い。「環境状

況」の「テレビ・ラジオからの情報を入手していますか。」の有意差も認められた。普段、テレビ・ラジオを主な情報源としている者は、学習活動への参加頻度が低い。

学習動機では以下の項目に対する同意度が高いほど、学習活動への参加頻度を促進していた。「交友志向」の「新たな友人を作ることができるから。」；「経験関与的課題志向」の「日常生活で見たり、聞いたりしたことについて学びたい。」；「特定課題志向」の「興味ある分野を学びたい。」。

以下の項目に対する同意度が高いほど、学習活動への参加頻度を阻害していた。「交友志向」の「人間関係が豊かになるから。」；「自己向上志向」の「自分の幅を広げたい。」と「物事を多様にみることができるから。」。

## 5. 結論

本研究では、中国における高齢者の学習への参加について、「新たな友人を作る」、「日常生活で見たり、聞いたりしたことを理解する」、「興味ある分野」のために必要な知識を得ることが参加の頻度を高めていることがわかった。国や自治体や大企業には、高齢者がその知識・経験を活かした地域での活躍の場の充実や、学習意欲がある高齢者の特徴を踏まえた学習機会の充実が求められており、学習情報の提供、学習内容の開発、関連事業の推進及び諸活動への指導・助言を始めとした学習環境の整備に努めることが求められる。今回分析してない高齢者の学習の関連要因を検討することも今後必要である。高齢者の学習活動の関連要因と学習動機だけではなく、学習活動参加への積極性や学習活動参加への持続性や学習の楽しさなど、他の要因も組み入れて検討することが課題として残されている。

文献：

- 1) 浅野志津子「学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程—放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から—」『教育心理学研究』2002；Vol. 50, No.2 P141-151
- 2) 葉忠海「老年教育学通論」.上海同济大学出版社 2014.P1-2.
- 3) Jack Mezirow 「Transformation Theory and Cultural Context: A Reply to Clark and Wilson」.『ADULT EDUCATION QUARTERLY』1991, Vol. 41, No.8 P188-192.
- 4) 奥山正司.「高齢者の社会参加とコミュニティづくり」.『社会老年学 / 社会老年学編集委員会』1986；Vol.24, P67-82.
- 5) 金貞任, 新開省二, 熊谷修, 藤原佳典, 吉田祐子, 天野秀紀, 鈴木隆雄. 地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因—埼玉県鳩山町の調査から—.日本公衆衛生雑誌 2004；Vol.51, No.5, P322-334.
- 6) 矢野香代, 近森由江, 広瀬美映, 山脇優子. 高齢男性の社会参加要因 川崎医療福祉学会誌 2008；Vol.53, No.7, P504-515.
- 7) 橋本修二, 青木利恵, 玉腰暁子. 「高齢者における社会活動状況の指標の開発」.『社日本公衆衛生雑誌』1997；Vol.44, No.10 P760-768.
- 8) 曹紅梅, 何新羊. 「積極的な高齢化視野下での社会活動参加が高齢者の健康に及ぼす影響」.『江蘇社会科学』2022；Vol.2, P166-175.
- 9) 茆海燕. 「高齢者の社会参加に関する文献レビュー」.『大学院紀要 (Toyo University Graduate School of Bulletin)』2012；Vol.49 P 129-146.
- 10) 呉長穂, 魏俊民. 「宝鷄市高齢者の家事労働と社会活動への参加状況調査分析」『宝鷄文理学院学報(社会科学版)』2012；Vol.32, No.6 P121-123
- 11) 郭浩, 羅潔玲, 劉斯琪. 「都市高齢者の社会参加状況と影響要素研究—広東省を例に—」.『統計と管理』2020；Vol.35, No.1, P64-69.
- 12) 李光, 張慧傑. 「新メディア時代の老年学習の苦境及び対策」.『中国成人教育』.2021；Vol.19, P14-18.
- 13) 栗本鮎美, 栗田主一, 大久保孝義, 坪田 (宇津木) 恵, 浅山敬, 高橋香子, 末永カツ子, 佐藤洋, 今井潤. 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) の作成と信頼性および妥当性の検討. 日本老年医学会雑誌 2011；Vol.48, No.2, P 149-157.
- 14) 張文娟, 劉瑞平. 「中国高齢者社会的孤立の影響因子分析」.『中国人口研究』2016；Vol.40, No.5, P75-91.
- 15) 田高悦子, 河野あゆみ, 国井由生子, 岡本双美子, 山本則子. 「大都市の一人暮らし男性高齢者の社会的孤立にかかわる課題の質的記述的研究」.『日本地域看護学会誌』2013；Vol.15, No.3, P 4-11.

- 16) 岸玲子,堀川尚子.「高齢者の早期死亡ならびに身体機能に及ぼす社会的サポートネットワークの役割内外の研究動向と今後の課題」.『日本公衆衛生雑誌』2004; Vol.51, No.2 P79-93.
- 17) 本田春彦,植木章三,岡田徹.「地域在宅高齢者における自主活動への参加状況と心理社会的健康および生活機能との関係」.『日本公衆衛生雑誌』2010; Vol.57, No.11 P 968-976.
- 18) 藤井啓介,北濃成樹,神藤隆志,佐藤文音,國香想子,藤井悠也,大藏倫博.「独居高齢者における地域活動への参加と抑うつとの関連性」.『理学療法科学』2017; Vol.32, No.1 P105-110.
- 19) 岡本秀明.「都市部在住高齢者の社会活動に関連する要因の検討—地域におけるつながりづくりと社会的孤立の予防に向けて—」.『社会福祉学』2012; Vol.53, No.3, P3-17
- 20) 李小平,馬佳,李黎,宋曦玲「高齢者の日常生活情報検索行為の現状と特徴」.『中国老年学雑誌』2014; Vol.23, No.9 P2523-2524.
- 21) 磯田貴道 「学習意欲や動機づけに関する概念の整理へ向けて」.『広島外国語教育究』2005; Vol. 8, P85-96.
- 22) 古谷野亘,西村昌記,安藤孝敏.「都市男性高齢者の社会関係」.『老年社会科学』2000; Vol.22, No.1 P 83-88.
- 23) 篠崎次男「地域在住高齢者における社会参加組織の種類と抑うつ状態の関係—日本の高齢者運動と学習活動—」『月刊社会教育』2012; Vol. 56, No. 8 P31